

厚生省心身障害妊婦管理研究班

昭和56年度 不妊分科会の記録

不妊分科会長 慶応義塾大学医学部産科婦人科学教室 飯塚理八

昭和56年度不妊分科会 第1回打ち合わせ会

分科会長 飯塚理八

日時：昭和56年7月15日（水）午後2：30～午後6：00

場所：東京 新宿 京王プラザホテル

出席者名簿：

飯塚分科会長，松橋厚生省技官補佐，沢崎・森山評価委員，和久・大野班員，森・楠田研究協力者，石田（帝京大），椎名（東歯大），野田・松島（徳島大），津田（九大），古橋・長池・桃野（東北大），小林，牧野，堺，吉村，和泉，内田，卓山，荻庭，有沢，中沢，鈴木，永井，未包，林（慶大）

計 30名

議事録：

昭和56年度厚生省心身障害妊婦管理研究班不妊分科会の第1回の打ち合わせ会は，上記のように7月15日，午後京王プラザホテル「みずき」で開催された。

会は飯塚分科会長の挨拶に始まり，まず大野班員の研究を椎名共同研究者が「人工受精その他不妊治療後の妊娠と出生児の研究」についてその計画の概要を説明し，続いて「受精卵の子宮内移植と凍結保存」について飯塚班員の共同研究者，堺からこれまでの基礎研究と本年度の研究方針が述べられた。この会は引き続き森研究協力者から「ヒト試験管内受精条件に関する基礎的検討」について研究報告が成され，自己抗体の生理に関する点と，将来の体外受精の技術の検討に関する点の二つについて本年度とくに研究の重点を置きたい旨説明が成された。この報告については，沢崎評価委員から発言があり，体外受精の際，精子の選択をどう行なうか，検討の要請が成された。会は続いて楠田研究協力者の「不妊治療の胎児に及ぼす影響」についての報告，討議に移り one clinic に於ける不妊治療と分娩後の出生児の follow up に重点をおく旨，説明が行われた。この後，「睾丸での血管系の電子顕微鏡による観察と造精機能」について和久班員の共同研究者，石田から報告が行われた。この研究では不妊症と関連のある停留睾丸症について，とくにその血管系の形態変化についての研究が続けられることが了承された。続いて星研究協力者の「in vitro fertilization における sperm の preincubation の影響」の研究について，共同研究者，長池から報告が行われ，今後，培養液中のイオン調整について引き続き研究が行われる旨，説明が行われた。

本会は次いで評価委員の講評に移り，まず沢崎委員より体外受精の臨床への応用はより一層の慎重性をもつて行なうよう要望が成され，森山委員からも本分科会の成果が，家庭・人類の幸福に貢献しうよう発言が成された。

この後，厚生省を代表して松橋技官補佐から本分科会の本年度の研究成果を望む総評が行われ，東北大，古橋より事務連絡・説明が成されたあと閉会した。

昭和56年度 不妊分科会第2回打ち合わせ会

不妊分科会長 飯塚理八

日時：昭和57年2月17日 午後2:00～午後5:00

場所：東京市ケ谷 私学会館

出席者名簿：

飯塚分科会長，松橋厚生省技官補佐，沢崎評価委員，和久・大野班員，森・星研究協力者，椎名（東大），野田・松島（徳島大），桃野・長池・京野・対木（東北大），鈴木，諸橋・小林・牧野・吉村・島津・堺・荻庭・和泉，入谷（京大）

計 23名

議事録：

昭和56年度厚生省心身障害妊婦管理研究班，不妊分科会の第2回打ち合わせ会は，上記の記録の如く2月17日，午後，東京市ケ谷，私学会館で開催された。

会は飯塚分科会長の挨拶で開会され，まず大野班員の「人工受精・排卵誘発併用による妊娠例の新生児所見」について椎名共同研究者から本年度の研究報告が行われ，大野班員が補足した。続いて「卵採取手技の検討そのⅠ」として飯塚班員の共同研究者，島津が近年発展がめざましい超音波検査法による，腹腔内の卵巣卵胞発育についての報告を行ない，本法による卵胞発育・排卵の追跡が可能であることを示した。「卵採取手技の検討そのⅡ」では，同じく飯塚班員の共同研究者，吉村がラパロスコープによる採卵手技の検討を発表し，新しい採卵器とそれによって採取された卵を示した。これら発表に鈴木（慶大）から，どの時期の卵を採取するか，*in vitro*に再び戻す時期をどのように決定するか等いくつかの質問が成された。引き続いて飯塚分科会長から，世界の体外受精の現況について詳細な報告が加えられ，各国で出生した体外受精児の数も供覧された。続いて森研究協力者から「ヒト試験管内受精条件に関する基礎的検討」と題して，野田共同研究者が28人より採卵した144個の卵の精子貫入率と採取時期の関係についての報告を行なった。

この後10分間の休憩のあと，京大入谷を含めて各研究について活発な交見が成された。続いて和久班員より「停留睾丸の血管系の電顕的観察」について不妊症との関連した報告が行われた。また星研究協力者は「受精と Ca^{++} ， Mg^{++} 」について培養液中のこれらイオンの重要性を示す一連の研究結果を報告した。

会は続いて沢崎評価委員と厚生省松橋技官補佐のそれぞれ講評，総評を受け，閉会した。